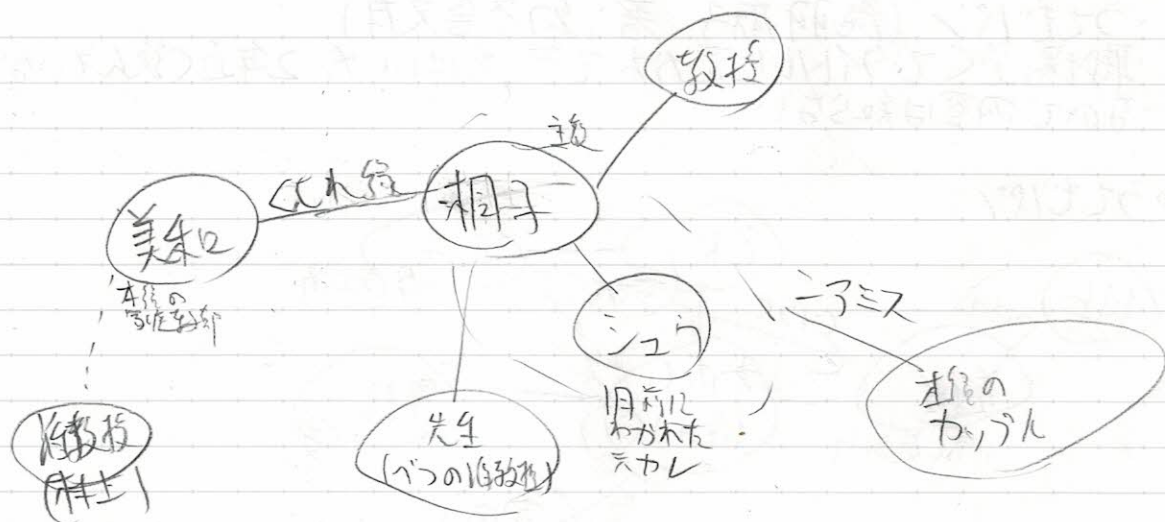


5/8/16

・はちみつ



・メロとか

「うさぎパン」本編終盤に近い時系列の、美和の知り合い桐子の失恋を描いた短編

病室でもないのに生じてしまう失恋時特有の症状が、あまりにも分析的に、端々、無感情に列挙されていく様は、それを体験したことのない人間にとっても恐ろしく感じる。ポイントなのはこの短編終了時点で別に桐子は失恋を克服できておらず、吉田先生との交流も単なる対処療法でしかない。いくら吉田先生から超然とした訓示をもらえたからといって、元カレの束縛は生活様式まで破壊してしまっていて、このまますぐハッピーエンド、とは考えようがない。

「うさぎパン」本編が突やがで甘ずっぱい恋愛の「光」の部分のスケッチだとしても、こちらは恋愛の「闇」の部分をもクロに塗りこめた、おぞましい油彩のような作品だった。